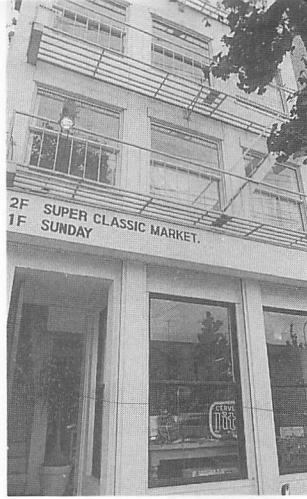


THE TACTILE SENSE.

FOR MEN



またひとつ、お洒落に可能性が見えてきた。
1Dのかたち。

1Fがユニセックス・カジュアルのSUNDAY、2・3Fはメンズのスーツ、Lサイズなども取揃えたSUPER CLASSIC MARKET。1~2万円ですぐ手に入るアンティークの椅子などを目当てに訪れる人もいて、男女を問わず楽しめる店になっている。取り扱いブランドはFIORUCCI、HAROLD'S GEARをはじめ、内外問わず手広くキャッチ。誰でも欲しい物が見つかる店だ。



本当にいい店は他人には教えない。ところが、いい店だけ友達にも教えたくなる店がSUNDAYだ。カジュアルなシャツからスーツ、革ジャン、バイク用ヘルメットや水着、サンングラスなどの小物に到るまで、こだわり派を納得させるラインナップで見ただけでも楽しくなれる。数だけでなく中身も、ポップな色使いや花柄もあれば、質実剛健・シンプルなオリジナル商品もあり、で当然、客層も幅広い。イタ・カジもどきの学生も居れば、自由業風ヤング・アゲルトも来る。つまり、その人のセンス次第で何色にも染められる。町の服屋なのである。メディアの発達と高所得化が地方にまで行き渡り、皆がみな「お洒落人間」になった。一徳総中産階級化が服飾文化の世界にまで行き渡ろうとしている。街を歩いても、あまりにもひどい格好をしている人も見かけないが、本当に洒落だな、と思える人にも出会わない。どんなファッションも、それを象徴とする集団に寄っているという印・一種の通行手形として機能しているからだ。アルマーニを着ても制服に見えるのではつまらない、と気付いた大人たちが、財布にも気持ちにも負担をかけないこんな店を愛し始めている。

SUNDAY

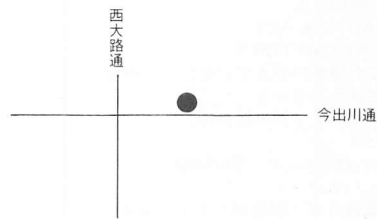
京都市上京区今出川通北野白梅町東入ル100m 北側

SUNDAY BLDG. 1F

075-463-7117

0:00PM~8:00PM

第2、3火休



寺町は生きていく。
伝統に創意工夫が息づく寺町界隈。
ここには、著名建築家は要らない。



酒井亭老舗

京都市中京区寺町通二条上ル

075-231-5609

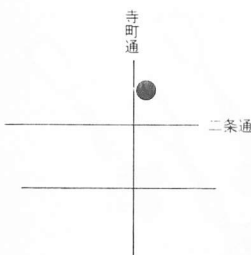
11:00AM~8:00PM

日休



20年ぶりに訪ねた竜田川の汚いのびっくり、その様子をとろろ昆布ともみじ麩で表現した「竜田川」など、変わりそばはご主人の旅の印象をそのまま表現したものであり。写真は芋かけの上に鰹がのった「松前そば」¥1,250と懐石弁当にも劣らぬ美しさの「養老そば」¥800。何が出てくるかも楽しみの一つだ。

寺町二条。昔ながらの職人気質と新しい感性が同居する不思議な町。その店も、高校生が屯する雑貨屋のすぐ隣にひっそりと佇んでいた。入口前の街路樹には神社のお札。お昼の混雑時をやり過ごした店の主人は、孫と戯れる優しいお祖父さんの顔になっていた。酒井亭老舗——創業明治36年、一見何の変哲もない蕎麦屋だが、実はTVでも紹介されたことがあるというほど、なかなかの変わり種だ。その理由は、ご主人の旅好きに端を発する「全国民謡変わりそば」にある。北は北海道から南は沖縄まで37ヶ所の名所に因んだアイデア蕎麦が楽しめる。あつて、昼食時には外人や修学旅行生を始めとする観光客は勿論、オフイス街の戦士たちで大盛況だ。伝統に胡座をかかない、酒井亭の心意気の勝利と言えるだろう。この町は、伝統の中に在りながら、新しいものと融け合う術を自然体のうちに身に付けている。そこには何の気負いもない。街の仕掛け人たちの思惑をよそに、皆が思い思いの命を咲かせている。自分の思い上がりに疲れたら、この街に出掛けて頑固な親爺さんたちの蘊蓄に耳を傾けてみる。この町は生きていくんだな、という安心と共に、心に力が漲ってくることだろう。



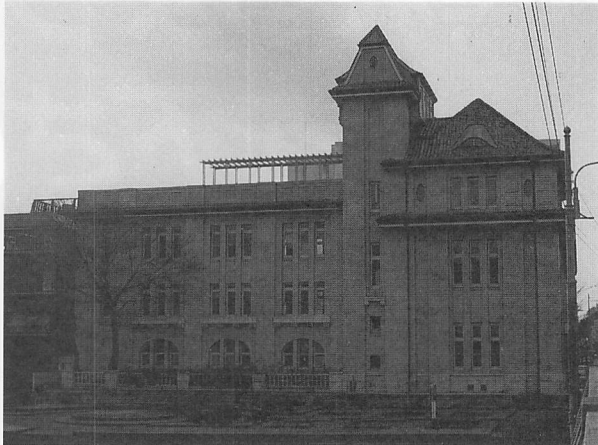
3

THE TACTILE SENSE.

FOR WOMEN



大正時代の日本ロマネスクと、ボリューム感タップリ、アメリカンスタイルの蟹料理。取り合わせの妙は行ってみたいのお楽しみ。写真の大きな蟹一匹にスープ・サラダ・コーヒーが付いて¥3,000のダンジネスクラブディナーは絶対のお薦めだ。他にもコンク貝の刺身、銀ガレイのルイベ等、珍しいメニュー満載。ウェイトイングに利用できるシックなバーホールもあり、京都の夜もゴージャスにワイド・アップしそうな気配。



CARNIVAL TIMES

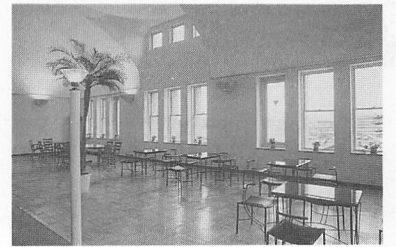
京都市上京区中筋通り丸太町下ル駒之町561の1
075-223-0606
11:30AM~11:30PM
無休

もう一つのルネサンス。
京都には夢の素材もまだまだ眠っている。

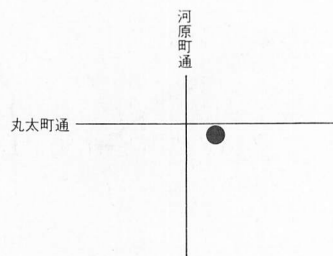
京の歴史がまたひとつ、私たちのために生まれ変わった。大正デモクラシーの名残を現在に留める「電気通信技術資料館」がそれだ。ジャズがあった。カフェーがあった。モボ・モガたちはキネマの主人公を夢み、チャールストンを踊った。少しのためらいと大いなる期待を胸に、誰もが夢を語れた時代のことである。

モダニズムの時代の夢と、現代のノウ・ハウの融合。彼らが求めていたものはここにある。私たちはここで、求めるものを探している。唯、この場所です。京都で、いい時間を共有したいという思いだけは変わらない。

1F、「カーニバル・タイムズ」は高い天井と180席という余裕のキャパシティを持つシーフード・レストラン。豊かな海の幸とワイン、ピアノの生演奏、そして時代を生きたオルゴールが新たな時を刻む手助けしてくれる。



2F・3Fにはフィットネス・クラブ「ハロー・スポーツ」。美しさや健康がこんなに商業的に大量販売される時代を見たら、大正のモボ・モガたちは目をまるくすることだろう。たとえその願いは共通でも。しかし、そんな大量生産の匂いをこの建物が確実にうすめている。夢の息づく館なのだ。高層建築の1フロアーに閉じ込められて汗を流すよりも、快適なのは確かだ。

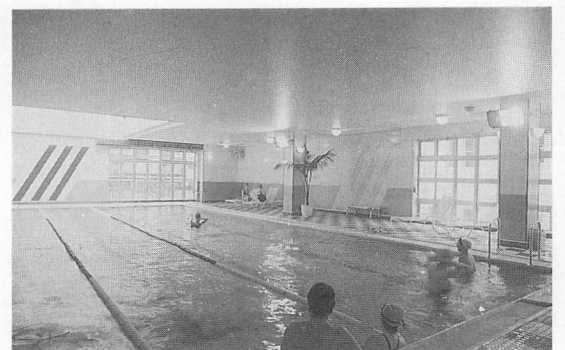


HELLO SPORTS PLAZA・京都

075-252-0086
11:00AM~9:30PM(日・祝日は10:00AM~6:00PM)
火休



重厚な建物に一步踏み入れば、一転して明るいイメージ。高い天井と充分な採光がかもす解放感やスタッフとのコミュニケーションの中で体も心も解きほぐされてゆく。入会費¥50,000、年会費¥70,000、利用料1回¥300。この他、ペア会員やファミリー会員制度を利用すればグッとお得。3Fのメンバーズ・サロンをはじめ、ジャグジーなどリラククス施設が充実しているのも嬉しいかぎりだ。



「電気通信技術資料館」であることをやめてしまったこのビルに、現在、名前はない。今の京都に日常に上手く馴染むなら、新しい名前は時代がつけてくれるのだろう。有形文化財に指定されているので、外観には全く手を加えていない。それは、初めて見るものなのに何故か胸を締めつける。あの不思議な懐かしさをたたえた姿だ。枠があるからこそ発揮される大きな力も、忘れることはできない。